

2021 年行事予定

- 2月13日(土) 第1回常任幹事会 終了
(Zoom会議)
- 5月21日(金) 第31回日本臨床検査専門
～22日(土) 医会春季大会 終了
- 5月21日(金) 1回全国幹事会、
第58回総会、
生涯教育講演会 終了
- 6月11日(金) 教育セミナー
～26日(土) (WEBセミナー)
- 7月16日(金) 第38回臨床検査振興
セミナー(ライブ配信)
- 8月 会長・監事 選挙
- 9月4日(土) 第2回常任幹事会
11月頃: 臨床検査の日を中心として
全国検査と健康展
- 11月11日(木) 第68回日本臨床検査医学
～14日(日) 会学術集会(富山)
第2回全国幹事会、
第59回総会・講演会
- 12月18日(土) 第3回常任幹事会(新旧合同)

【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 「臨床検査医学への提言」第2回
- p.3 事務局からのお知らせ、第58回日本
臨床検査専門医会総会(WEB開催)報告、
2021年度第31回春季大会について、臨
床検査振興セミナーのお知らせ、2021年
会長・監事選挙のお知らせ
- p.4 第68回日本臨床検査医学学会学術集会
(富山)のご案内、2022年度第32回春
季大会のお知らせ、2021年行事予定、
SARS-CoV-2対策掲示板のお知らせ、臨
床検査振興協議会「りんしょう犬さん」
クリアファイルのご案内、2021年度会
費振込のお願い、住所変更・所属変更
に伴う事務局への通知について、会員の声
- p.5 会員の声
- p.6 会員の声、編集後記

巻頭言

済生会横浜市東部病院 臨床検査科
日本臨床検査専門医会 副会長
菊池 春人

専門医会の副会長を拝命しております菊池です。本巻頭言執筆時点では新型コロナウイルス流行第4波のまっただ中で9都道府県に緊急事態宣言、8県にまん延防止等重点措置が出されています。ワクチン接種は少し加速してはきたものの、まだ収束には時間がかかりそうに思われ、検査対応、感染管理などにお忙しい先生方も多いことかと思えます。

5月21日、22日に開催された第31回日本臨床検査専門医会春季大会もこの第4波の影響を受けて、現地+オンラインのハイブリッド開催から急遽開催1か月前にオンライン開催のみへと変更となりました。現地秋田での出席を考慮しておられた方には大変残念であったかと思えます。なんといっても、開催形式の急な変更で大変ご苦勞されたのが、大会長の秋田大学植木重治先生ですが、そのような状況であったにもかかわらず非常に順調な進行の大会となり、プログラムも「どさいぐ? Where are we going?」というテーマに違わずわれわれ会員に専門医として向かうべき道筋を考えるのに大変参考になったものだったと思います。改めてお礼を申し上げさせていただきます。このようなオンラインでの開催にもいろいろメリットはありますが、やはり「専門医会」というギルドの会では顔を突き合わせて懇談するという場は必要だと感じていますので、来年の鹿児島ではぜひ皆様と対面でお話しできることを期待しております。

もうひとつここでお伝えしたいこととして、専門医会の法人化のお話があります。小生、メ谷会長からの指名で法人化ワーキンググループのリーダーを務めております。当初は数年をかけて検討、という予定と考えていました。法人化へ進むという方向性については公的な場での社会的な位置づけの点から昨年の全国幹事会でも認められていましたが、専門医会が加盟している臨床検査振興協議会が法人化するにあたり、他の団体が法人であるのに、専門医会だけが任意団体であるため、専門医会も法人となって欲しい、という要望が出され、急遽来年の年初を目標として法人化をすることの具体的な準備を進めることになりました。そのためにこの夏に臨時総会を開いて法人化について全会員からのご意見をいただくことになる予定ですのでご承知おきいただければと思います。(この件は5月22日の総会に最後にメ谷会長からお話しがありましたので、総会に参加された方はご存じのことと思います)。法人化の手順については今後会計事務所なども相談して準備していくことになっております。どうぞご理解の程よろしく願いいたします。



りんしょう犬さん LINE スタンプの検索方法
LINE→ウォレット→スタンプショップ

「りんしょう犬さん」を検索
検索結果→「クリエイターズ」を選択

<https://store.line.me/stickershop/product/8679516>

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を社会に伝える活動に使用させていただきます

「臨床検査医学へのリレー提言」第2回

医療法人 明和病院 臨床検査部
日本臨床検査医学会 名誉会員
佐守 友博

登 前会長からのリレーということで今回は元会長の佐守から一筆献上させていただく。

登先生の言葉を拝借すると、今年2021年もCOVID-19に医療界は明け暮れることになると思う。前会長はシャープかつ非常にジェントルに我々臨床検査専門医は何をすべきで何が出来ていないかを述懐されていた。まったくもって仰せの通りですが、同じ内容をジェントルとは程遠く、シャープな切れ味も持ち合わせていない私が書いたとしたら、多くの会員が傷つかれ、不快感をいだかれることであろう。それでも言いたい「COVID-19の検査に対しいたい臨床検査専門医は何をしていたのか」、「臨床検査の専門家として、この疾患の臨床にどう携わってきたのか」と。それぞれの臨床検査医が現場で努力をしている時に、その方向性をまとめていくのが日本臨床検査医学会であり、我々日本臨床検査専門医会でなければならない。

I. COVID-19 と私

獨協医大越谷病院を1988年に退職して以来31年間もの長きにわたり衛生検査所で働いてきた私が、2019年に検査センター勤務に終止符を打ち、2020年1月より市中病院に入職し余生をゆっくり過ごそうとしたと同時に、COVID-19の流行が本格的となった。SARS-CoV2という新しいコロナウイルスが社会（国民）に与えたインパクトは大きく、おそらく医療界・政界・財界・芸術界など様々な分野に大きく影響を与えている。

私は過去に東京医大で血友病患者を多く担当していた時期もあり、HIVという免疫学の解明に大きく役立つウイルスと遭遇した。やはり、AIDSが新興感染症として出現したときの感染者の生存率は低く（死亡率は高く）生存期間も短かった、治療薬の進歩とともに死亡率は低くなり、生存期間に至ってはほとんどの患者が寿命を全うできるようになっている。AIDSについては感染の経路が明確になったうえ感染率がCOVID-19に比べ低いことから、レトロウイルスに対するワクチンの開発が難しいことと相俟って、まだ効果の確定したワクチンは出来ていない。

このHIVの出現は当時の血友病を治療していた我々医療者には大きなインパクトがあり、このウイルスが免疫学に大きな寄与をしたことが記憶に残っている。

今回のSARS-CoV-2の出現の世界へのインパクトはHIVとは比較できないほど大きく、70歳を過ぎ「もう世の中にビックリするような新しいものは出てこないだろう」と考えていた私にとっても、「こんなものが世に出てくるとしたら、まだまだやることはありますよ」という目覚ましパンチを喰らったような衝撃であった。このウイルスが科学・医学に与える貢献を語るのももう少し先になるべきと思うが、臨床検査医学に寄与する研究が多く臨床検査医によってなされることを願う。

II. 臨床検査部への新型コロナウイルス検査のマイルドな導入

2020年4月6日から発熱外来を開設した当院ではPCR検査を外部に委託することとし、臨床検査部とICTで安全に採取された検体を安全に取り扱うマニュアルを作成した。検査部では常にHBVやHIVやTB菌などの感染対策を行っていたので、各種検体を正しく取り扱う訓練ができていた。臨床検査医がCOVID-19の病態生理と新型コロナウイルスについての

正確な情報を伝えることで、臨床検査技師も納得してSARS-CoV-2患者検体を取り扱うことができるようになってくれた。6月にはSARS-CoV-2抗原定性検査と抗SARS-CoV-2スパイク蛋白抗体定性検査の院内導入を行い、当直帯での抗原検査の実施が可能となった。抗体検査は当院の総合健診センターのオプション項目として検体を受け取った。感染拡大が始まりクラスターが発生する寸前の10月半ばに等温核酸増幅検査機器LAMPが2台導入され、日勤帯での院内核酸検査が実施できることとなった。今年3月には当直帯とLAMPのバックアップ機器として同じく等温核酸増幅装置ID-now1台が導入され、術前患者や感染対応に役立っている。

再来するであろう大きな波に備え、この6月にはPCR核酸増幅装置GeneXpert(4チャンネル)1台が導入される予定である。

III. 新型コロナウイルス関連で 臨床検査部が行ったことの一例紹介

私の想像をはるかに越える速さでCOVID-19に対するワクチンが実用化された。

私の所属する明和病院のある兵庫県では、ファイザー社のワクチンが接種されることとなり、当院では連携型接種医療機関としておよそ800名の医療関係者に対するワクチンの接種が3月28日から開始された。ワクチンは冷凍されたものを近隣の基本型接種医療機関である兵庫医大病院の薬剤部に受け取りに行くこととなった。

3月2日から臨床検査部と薬剤部でミーティングを行い、協力して接種への対応を開始した。最初に行ったことはワクチン液の希釈の精度管理である。ワクチンは解凍後の原液0.45mLに生理食塩水（生食と略す）を1.8mL加えて希釈するとされていた。生食を分取する希釈用5mLシリンジが正しく1.8mLを注入できているかの検討で、数人の薬剤師が1.8mLの目盛まで吸引し試験管内に射出した生食を臨床検査技師がマイクロピペット(Eppendorf)で定量した。希釈用にその時配布されていた5mL用シリンジでは、平均1,750 μ Lという結果が得られ、つぎに1.9mlの目盛まで吸引した生食の測定値の平均は1,850 μ Lであった。そこで、生食の吸引は1.8と1.9の目盛の間までと決定し実際の希釈を行うことにした。

さらに当初配布されていた接種用シリンジと針の組み合わせで、接種量の0.3mLを1Vialから何本取れて、シリンジや針のデッドスペースに何 μ L残りVial容器内に何 μ L残るかの計量を行った。薬剤部と検査部で最も効率よく分取する方法を考案し、1Vialから5.7人分のワクチンを分取できるようにした。

いま65歳以上の高齢者に接種するために行政から配布されている希釈用シリンジと接種用シリンジとロスの少ない針の組み合わせでも同様の検討を行った。希釈用の3mL用シリンジは正確に1.8mLを吸入・射出できることが確かめられ、1Vialから6.6人分が分取できることを確認している。無駄なくワクチンをより多くの人に接種することに検査部として協力している。

おわりに

以上、新型コロナウイルスに対しできること・できたことの一部を紹介したが、未知のウイルスの出現は様々な試みをする大きなチャンスでもある。多くの検査室からの本誌への「こんなことしてみました」という投稿や「抗体検査の本当の意味での標準化」や「Bリンパ球の奇妙な動き」など免疫学の概念を覆すような論文発表などで臨床検査医学が盛り上がることを期待して本稿を終える。

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2021年6月11日現在数801名, 専門医647名

【新入会員】(敬称略)

伊藤 裕佳: 獨協医科大学病院

藤田 彩人: 東京勤労者医療会 東葛病院

小野 ゆり: 東京勤労者医療会 東葛病院

上野 智代: 東京勤労者医療会 東葛病院

町野 智子: 筑波大学医学医療系 循環器内科

吉澤 定子: 東邦大学医学部臨床検査医学講座/
微生物・感染症学講座

【所属・その他変更】(敬称略)

木村 雅友: 旧 近畿大学病院 病理診断科

新 橋本市民病院 病理診断科(和歌山県)

福地 邦彦: 旧 昭和大学保健医療学部理学療法学科

新 昭和医療技術専門学校

秦 美暢: 旧 東邦大学医学部医療センター 大森病院

新 医療法人社団葵会 AOI 国際病院

太田 善夫: 旧 近畿大学医学部奈良病院 臨床検査部

新 和泉市立総合医療センター 特別顧問、
病理診断科

中野 哲志: 旧 京都大学医学部附属病院 検査部

新 国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター
主任研究官

大月 道夫 旧: 大阪大学大学院医学系研究科内分・

代謝内科学

新: 東京女子医科大学内分・内分泌内科学 教授

【訃報】

米山 彰子先生: 虎の門病院中央検査部

2021年5月13日ご逝去

ご冥福をお祈り申し上げます。

【第58回日本臨床検査専門医会総会(WEB開催)報告】

春季大会開催に合わせ5月21日(金)に第58回日本臨床検査専門医会総会(2021年第1回総会)は、WEBでの開催となりました。郵送による事前の議決権行使(196通)、委任状提出(86通)により、総会は成立しました。当日は100名程アクセスがありました。

<審議事項>

第一号議案: 2020年度決算案について(別表)

第二号議案: 2021年度会長・監事選挙について

第一号議案、第二号議案については異議なく、承認されました。

<報告事項>

各種委員会等報告の他、2022年度春季大会(橋口照人大会長・鹿児島大学)のお知らせ、〆谷会長より本会法人化の動きについて報告がありました。

【2021年度第31回春季大会について】

本年度春季大会(植木重治大会長・秋田大学)は、5月21日(金)~22日(土)に全面WEB形式で開催されました。200名あまり(7名の学生参加含む)の参加があり、無事終了しました。

		項目	2020年度予算額	2020年度決算額	予算と決算の差
収入	会費	会員会費	6,535,000	5,930,000	-605,000
		賛助会員会費・寄付金	3,300,000	3,300,000	0
		小計	9,835,000	9,230,000	-605,000
	その他入金	広告収入	250,000	131,077	-118,923
		教育セミナー参加費	400,000	190,000	-210,000
		生涯教育講演会参加費	200,000	0	-200,000
		振興セミナー参加費	60,000	0	-60,000
		利息	1,000	861	-139
	小計	911,000	321,938	-589,062	
			入金合計	10,746,000	9,551,938
支出	庶務経費	事務所維持費	1,700,000	1,786,225	-86,225
		人件費	1,750,000	1,598,678	151,322
		設備費	50,000	126,500	-76,500
		電話・FAX(使用料)	60,000	54,246	5,754
		通信費(事務局)	210,000	189,708	20,292
		事務局雑費	150,000	140,709	9,291
	小計	3,920,000	3,896,066	23,934	
	事業経費	印刷代	1,400,000	636,082	763,918
		要覧印刷代	0	0	0
		通信費	600,000	335,835	264,165
		春季大会補助金	500,000	500,000	0
		臨床検査振興セミナー費	850,000	244,200	605,800
		教育セミナー費	650,000	277,951	372,049
		会議費	1,000,000	451,433	548,567
		交通費	100,000	51,680	48,320
宿泊費		30,000	10,270	19,730	
原稿料	50,000	0	50,000		
専門医会ネットワーク維持費	100,000	12,540	87,460		
HP維持費	330,000	0	330,000		
会員管理委託費	132,000	132,000	0		
広報活動費(委員会HP)	50,000	0	50,000		
JCCLS会費	50,000	50,000	0		
WASPALM会費	55,000	53,248	1,752		
臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0		
内保連	200,000	200,000	0		
予備費	429,000	0	429,000		
小計	6,826,000	3,255,239	3,570,761		
		出金合計	10,746,000	7,151,305	3,594,695
		収支決算	0	2,400,633	2,400,633
		前年度繰越金+定期預金		28,762,218	
		次年度繰越金+定期預金		31,162,851	

【教育セミナーについて】

本年度はWEBセミナー形式で開催されます。(配信期間: 6月11日~28日)

36名より受講申し込みがありました。

【臨床検査振興セミナーのお知らせ】

日 時: 2021年7月16日(金) 14:30より

開催形態: WEBによるライブ配信

内 容:

・特別講演Ⅰ 14:35~15:35

「(薬事審査に関わる)体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドラインについて」

座 長: 横崎 典哉(渉外委員会委員長)

講 師: 内山 浩之氏

日本臨床検査薬協会 法規委員会委員長/

日水製薬株式会社 信頼性保証部 部長

・特別講演Ⅱ 15:45~16:45

「外国人患者とは?検査時のポイントを考える」

座 長: 〆谷 直人(会長)

講 師: 山田 秀臣氏 東京大学医学部附属病院

国際診療部 副部長

参加費: 無料

* 参加ご希望の賛助会員、正会員の方は本会ホームページの第38回臨床検査振興セミナーの項より事前登録をお願いします。

* 各講演とも日本専門医機構臨床検査領域講習1単位が取得可能です。

【2021 年会長・監事選挙のお知らせ】

会長・監事選挙の日程は以下の通りです。

- 5月25日(火) 公示
- 6月7日(月) 推薦・立候補受付開始
- 6月28日(月) 推薦・立候補締切り
- 7月12日(月) 会長候補者所信表明締切
- 8月2日(月) 投票開始(投票用紙発送予定日)
- 8月28日(土) 投票締切り(消印有効)
- 9月4日(土) 開票
- 9月7日(火) HP 上に結果を掲載

【第68回日本臨床検査医学会学術集会(富山)のご案内】

第68回日本臨床検査医学会 学術集会

- 会期：2021年11月11日(木)～14日(日)
- 会場：富山国際会議場・富山市民プラザ
- テーマ：学際的臨床検査医学のおもしろさを広げよう！
- 会長：北島 勲(富山大学：理事、副学長)
- 副会長：仁井見 英樹
(富山大学医学部臨床分子病態検査学講座)

・教育研修委員会では、日本臨床検査医学会教育委員会との共催シンポジウムは、以下の通り予定しています。

- 1) テーマ：「臨床検査の社会貢献」
- 2) 座長：東田 修二、涌井 昌俊
- 3) 演者：井戸 健太郎(大阪みなと中央病院)
朝比奈 彩(静岡赤十字病院検査部副部長)
眞鍋 明広(福山市民病院診療部臨床検査科長)
三宅 紀子(つばめクリニック院長)

・広報委員会では、日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、教育委員会と合同でワークショップを開催予定です。

【2022 年度第32回春季大会のお知らせ】

大会長：橋口 照人

(鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 血管代謝病態解析学分野 教授)

期日：2022年5月20日(金)～21日(土)

テーマ：次世代バイオマーカーへの挑戦

【2021 年行事予定】

2021年の日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせします。開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

2021 年

- 6月11日(金)
～26日(土)：教育セミナー (WEB セミナー)
- 7月16日(金)：第38回臨床検査振興セミナー (ライブ配信)
- 8月：会長・監事選挙
- 9月4日(土)：第2回常任幹事会
- 11月頃：臨床検査の日を中心として全国検査と健康展
- 11月11日(木)
～14日(日)：第68回日本臨床検査医学会学術集会(富山)
- 11月11日(木)：第2回全国幹事会、
第59回日本臨床検査専門医会総会・講演会
- 12月18日(土)：第3回常任幹事会(新旧合同)

【SARS-CoV-2 対策掲示板設置のお知らせ】

(広報委員会より)

専門医会会員ネットワーク内に SARS-CoV-2 対策掲示板を設置しました。PCR の技術関連、精度管理、検査者の PPE(個人防護具)等、内容は問いません。検査管理体制の情報共有やそれらに関する疑問等、みなさまのディスカッションの場としてご利用ください。

SARS-CoV-2 対策掲示板 URL：https://bbs.jaclap.org/virus/index.cgi
(閲覧には Password が必要です。閲覧をご希望の方は事務局までメールでご連絡ください)

【臨床検査振興協議会「りんしょう犬さん」

クリアファイルのご案内】

本会が会員として参加する臨床検査振興協議会では「りんしょう犬さん」をモチーフとしたクリアファイルを製作しております。本会会員の先生方には教育、啓発、宣伝活動等に無料でご利用いただけますので、本会事務局までご請求下さい。

1回の請求で A4 サイズで 30 枚または A5 サイズで 50～60 枚の送付が可能です。

【2021 年度会費振込のお願い】

2021 年度の会費の納入がまだお済でない方は振込をお願い致します。

尚、未納分のある会員の方は合計額の振込をお願いします(納入状況は振込用紙に記載してあります)。

2021 年度年会費：10,000 円

(2021 年 1 月 1 日現在、70 歳以上の方は 5,000 円)

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキユウ店)

預金種目：当座 口座番号：0020509

口座名：日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせ下さい。過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にとともに定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから、または E-mail、FAX をお願いいたします。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110

メールアドレス：senmon-i@jaclp.org

【会員の声】

医学生・研修医のための

臨床検査ハンズオンセミナー開催のお知らせ

2018 年度から開始された新専門医制度では、臨床検査は基本領域の一つとなっていますが、臨床検査(専門)医の業務は、多くの学生・医師にとって、未だになじみの薄いものかもしれません。日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会では、医学生や研修医に臨床検査(専門)医の業務内容やキャリアパスを知っていただき、臨床検査の楽しさに触

れて頂くとともに臨床検査専門医を目指して頂く機会として、2017年から医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナーを開催しています。例年、多くの医学生、研修医にご参加頂き、実際に臨床検査専門研修を開始された参加者もおられます。昨年はコロナ禍のため、残念ながら開催を見送りましたが、今年は日本臨床検査医学会近畿支部と合同でwebセミナーを開催いたします。

多くの臨床検査専門医に触れる大変貴重な機会ですので、臨床検査に興味のある医学生・研修医へのお声がけをお願いできればと存じます。また、web開催のため、自由にご視聴いただける予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第5回 医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナー開催概要

主 催：日本臨床検査医学会
ワークライフバランス委員会、近畿支部
共 催：日本臨床検査医学会 教育委員会、
日本臨床検査専門医会 教育研修委員会
日 時：2021年8月1日(日) 13時～17時
開催形式：Webセミナー 視聴可能人数300名
受講料：無料
対象・定員：医学生(5.6年生)、初期臨床研修医 定員28名、
(転科や臨床検査専門医取得を検討中の若手医師、
医学4年生の参加も歓迎します)
参加受付期間：2021年7月23日まで
(先着順、定員になり次第締め切り)
参加受付フォームURL：<https://forms.gle/gxyTKoqy3rFsG9oL8>
視聴受付期間：2021年8月1日まで(予定)
視聴受付フォームURL：<https://forms.gle/LU4h4MDAGRJusrXCk6>
プログラム：

13:00～13:05 開会の言葉

13:05～13:25

<講演1> 臨床検査専門医のキャリアパス・大学病院の
専門医業務紹介

講 師：順天堂大学 田部 陽子

13:25～13:35 <講演2> 市中病院の専門医業務紹介

講 師：静岡赤十字病院 朝比奈 彩

13:35～15:35 RCPC

講 師：聖マリアンナ医科大学 五十嵐 岳、
信州大学 松本 剛

複数の検査結果の組み合わせとその変動から、病態を読み解くプロセスを学びます。少人数グループディスカッションを行います。

15:40～16:30 感染症セミナー

講 師：京都大学 長尾 美紀

日常診療でよく遭遇する感染症を中心に、診断法や検査計画について学びます。

16:30～16:35 閉会の言葉

16:35～17:00

臨床検査専門研修、臨床検査専門医についての質疑応答
(参加自由)

司会進行：東京大学 西川 真子、

聖マリアンナ医科大学 五十嵐 岳

参加者からの質問に、臨床検査専門医が生の声でお答えします。

(東京大学医学部附属病院検査部 西川真子)

臨床検査専門医試験を受験して

私は広島大学病院の血液内科(輸血部)に勤務している8年目の医師です。以前は同病院で血液悪性疾患の診療をしてい

ましたが、輸血部に異動してからはHIV/AIDSの診療、血液凝固疾患の診療、研究をしています。私が臨床検査専門医を知ったのは、4年前、病棟業務に明け暮れていた時のことでした。血液内科の同門で臨床検査医をされている先生がおられることを知ったのです。早速、広島市民病院臨床検査部の三好夏季先生にお願いして、お仕事風景の見学に行き、お話を伺いました。そこで、「面白そう、私も検査の勉強がしたい!」と思い、すぐに広島大学病院検査部の横崎典哉部長に相談に行き、カリキュラム制の研修を開始させて頂きました。

カリキュラム制なので、仕事の空き時間にマイペースに研修を進めていく形でした。もともと検査室には頻繁に出入りしていたので、スムーズに研修が開始できました。日々の勉強は大変というよりも、とても楽しいものでした。研修期間中は、できるだけ臨床検査学会に参加しました。ワークショップで全国の先生方と知り合いになり、先輩方のお話が聞けたのも、とても刺激になりました。

3年間の研修を終え、2020年の専門医試験に合格し、念願の臨床検査専門医になることが出来ました。とりあえず、これからのスタート地点に立てたのだと思います。ここで、今回、専門医試験の勉強をしたことで、自分のためになったな、良かったな、と思うことを書きます。

①臨床に役立つ知識が身についた!

初期研修を終え、病棟で奮闘していた頃は、血液内科医が日常的にオーダーしている検査がよく理解できていませんでした。その頃はまだ自分が重要な検査を出すことはほぼ無かったのですが、血液内科の診療には、フローサイトメトリー、染色体検査、FISHなど、沢山の検査が必要です。加えて感染症検査も出す機会が多く、頻繁に検査のレポートが返ってきます。分からない事は、上級医や検査技師さんに質問して一時的に乗り切りますが、日々の業務に追われるばかりで、検査のキモの部分をしっかり理解できないままだったので、とてもモヤモヤしていました。もともと記憶力が良い方ではないので、付け焼刃の知識はすぐに忘れてしまいます。しかし、3年間の勉強のお陰で、以前のようによく分からないまま、ということは激減しました。まだ成長の途中ですが、検査結果を把握した上で患者さんの病態が理解できるようになりました。

②当然ですが、検査自体に詳しくなりました!

「医師が検査のオーダーを立てて、検体が病棟を旅立ち、検体が検査され、結果のレポートが返ってくる」という一連の中で、多くの場合、臨床医は初めと最後の部分しか関わりません。多くの先生にとって真ん中の部分はブラックボックスだと思っています。今回の勉強を通して、その真ん中の過程を知ることができました。気になった検査については、プロトコルまで勉強しましたし、実際にやらせて貰いました。外注検査も、疑問点があれば施設に電話し、担当者に取り次いで頂き、質問しました。また、外注の検体がどの様に処理されるのかが知りたかったため、東京にあるSRLの施設を見学させて頂きました。お陰で、私たちが普段関わらない謎に包まれた部分を一度は目にすることができたと思います。

③臨床検査技師の業務内容、仕事の大変さが分かった!

検査室に頻繁に出入りしていたので、技師さんの日々の業務を近くで見せて頂くことができましたし、技師さん同士の会話の内容も聞けました。検査の業務に加え、精度管理や、ISOへの取り組みなど、仕事の内容は多岐に渡ります。検査には実に沢山の工程がありますし、検査室や機械の管理、電子カルテのシステムの管理など、お仕事の幅がとても広くて驚きました。また、一つの部門だけでなく、沢山の部門の知識をもっている技師さんもおられます。臨床検査技師さんは、まさに検査のプロ、多くのことを教えて下さいました。

④基礎研究に役立つ！

検査結果をじっと眺めていると、基礎研究のテーマを思いつくことがあります。私は今、成人T細胞性白血病の研究をしていますが、このテーマは、患者さんの検査の結果から着想を得たものです。また、検査の工程と実験の工程は、当然ながら同じ個所や手技があるので、検査の勉強をしておく、実験にとっつきやすくなると思います。

以上、臨床検査専門医になるための勉強をして良かったことでした。

医師の仕事を続けていく上で、今回勉強したことは、役立つことであつたと確信しています。私のコメントを読んで臨床検査の勉強を始めようと思つて下さる先生が増えれば、とても嬉しいです。お世話になった先生方、技師の皆様、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

(広島大学病院 輸血部 井上暢子)

臨床検査専門医としての抱負

第37回臨床検査専門医認定試験で合格を頂き、此度は臨床検査専門医としての抱負を述べる機会を頂き誠に有難うございます。私は、1988年に日本医科大学の循環器内科、肝臓内科および一般内科を担う第一内科に入局し、専門分野に囚われない広い視野に立つ診療をご指導頂きました。臨床研修期間中より心臓超音波検査や腹部超音波検査、ホルター心電図、運動負荷試験では生理機能検査部門の臨床検査技師の方々にもご指導頂きました。研修終了後は心臓電気生理学を専攻し、電気生理学における仮説を確かめるため、2003年よりオーストラリアのNew South Wales 州立大学へ留学する機会を得ました。同大学では炎症に関する細胞生物学、分子生物学、免疫学および遺伝子工学の研究手法を修得し、急性炎症に関与する蛋白質の遺伝子発現の調節機構およびシグナル伝達機構につき研究しました。帰国後は循環器内科医として日常診療に従事していましたが、機会があり臨床検査の精度管理のため臨床検査部に配属となりました。

臨床検査部では医師による検体検査の精度管理システムを構築する一方、新病院開院に伴う臨床検査部の移転、ISO 15189認定審査の受審など貴重な経験を積むことができ、日常業務では多くの診療科と臨床検査について討議する機会を得ることができました。これらの討議の中で臨床医が臨床検査の結果に期待することと臨床検査の結果解釈との乖離を痛感し、一般臨床と基礎科学を学ぶ者として臨床と臨床検査の懸け橋となる者の責務の重大さを強く認識しました。昨年より流行している新型コロナウイルス感染症においても、関連するPCR検査、抗原検査や抗体検査が新たに開発され、臨床で広く用いられるようになりましたが、当初その検査適用や結果解釈についての検討が不十分な事例が散見されました。新型コロナウイルス感染症において不十分な検討は感染拡大に繋がり、改めて臨床検

査に携わる者の責務の重大さを痛切に感じました。

また、新型コロナウイルス感染症の流行初期には、PCR法を用いたSARS-CoV-2核酸検出検査の臨床検査部への導入に携わりました。感染症流行前には臨床検査部では、RNAを抽出し、抽出したRNAより逆転写反応にてcDNAを生成し、Real-time PCRにて標的RNAの発現を検出する検査システムは構築されていませんでしたが、基礎科学における経験と専門医認定試験の過程で学んだ知識からSARS-CoV-2核酸検出検査を速やかに構築することができました。今後も基礎科学における手法が臨床検査に導入されることが多くなり、基礎科学と臨床検査との懸け橋となる専門医が求められると推察しました。

私は基礎科学、臨床検査および一般臨床との懸け橋と成るべく、微力ではありますが、尽力してゆく所存です。しかし、此度臨床検査専門医を取得したものの、その技能は未熟であり、今後更なる研鑽を積み、最新かつ最適な検査を提供し、その結果につき適切な解釈を付加することにより、病院の機能向上、臨床検査医学の発展に貢献して参ります。今後とも御指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

最後に、此度の専門医試験に際して、御指導頂きました日本大学医学部病態病理学系臨床検査医学分野 中山智祥教授、日本臨床検査専門医会教育セミナーで御指導頂きました先生方、多忙な業務にも拘らず検査の実技指導を頂きました臨床検査技師の皆様感謝申し上げます。

(日本医科大学付属病院・臨床検査部 遠藤康実)

【編集後記】

前号より、第二ページ(裏面)に「臨床検査医学への提言」として、ベテラン専門医より提言を伺うコーナーを開始させていただきました。この「臨床検査医学への提言」はリレー形式でお願いしていますので、指名された際には、快く引き受けていただくと幸いです。また同様の内容を日本臨床検査専門医会のホームページにも残るような形でできればと考えています。今号は、元会長の佐守先生にお願いしましたが、次回は誰でしょうか？お楽しみに！

国内でも新型コロナワクチンの接種が進み、臨床検査関連学会も通常開催ができる日がくれば、と思います。しかしながら現状は開催形式(ハイブリッドないしは現地開催)や演題登録数の減少など、学会運営にも予期しない問題点があると思います。賛否両論あるとは思いますが、JACLaP Newsを通じて、臨床検査関連学会の広報なども含めて、臨床検査関連学会の会員数の増加・会員間の交流につながるような記事を組めるように努めてまいります。JACLaP Newsへの掲載依頼は、事務局ないしは私まで気軽にご連絡ください。

(編集主幹 九州大学病院検査部 後藤和人)

日本臨床検査専門医会

会 長：谷直人、副会長：菊池春人(法人化検討WG)、村上純子(女性医師支援WG)

常任幹事：東田修二(庶務・会計幹事)、五十嵐岳(広報委員会委員長)、田部陽子(教育研修委員会委員長)、東條尚子(資格審査・会則改定委員会委員長)、福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、増田亜希子(ネットワーク運営委員会委員長)、三井田孝(保険点数委員会委員長)、横崎典哉(渉外委員会委員長)

監 事：土屋達行、古川泰司

全国幹事：伊藤弘康、稲葉 亨、植木重治、大西宏明、上岡樹生、北中 明、木村 聡、木村秀樹、下 正宗、千葉泰彦、中島 収、中村聡子、藤井 聡、松井啓隆、松野容子、山崎悦子、山崎正晴

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委 員：五十嵐岳、出居 真由美、後藤 和人、信岡 祐彦、盛田 俊介、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jaclp.org